

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）

- A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	みやき町立三根東小学校
1 前年度 評価結果の概要	・令和5年度の学校評価結果については、主に以下のような成果(☆)や課題(★)があった。 ☆全体的に、どの項目についても、達成することができていた。各担当者の企画・立案について、全校が一丸となって取り組む事ができた成果と言える。 ★「児童の豊かな読書力の推進」の項目で、目標冊数を全体的には十分達成できていた。しかし、読書量の個人差が大きいので、今年度は、担任や図書委員会からの呼びかけを強化するとともに、国語科等の読解力指導とも関連させながら、学年に応じた読書の取り組みに力を入れ琉。 ★「保護者、地域、関係機関との連携」の項目で、目標は上回っていたが、昨年度から学校運営協議会が始まったこともあり、更によりよい保護者、地域、関係機関との連携の在り方について考えていく。 ★不登校や心理的不調、特別支援など配慮の必要な児童が増えつつあることから、教職員の児童理解力の向上や問題に組織的に対応するための役割や動きの再確認と共通理解を図る必要がある。

2 学校教育目標	自ら学び、心豊かに、たくましく生き抜く東っ子の育成
----------	---------------------------

3 本年度の重点目標	1 確実な学力向上と個別最適な学びと協働的な学びの推進（学びづくり部） 2 心の安心を育む学校風土の確立と児童の自己肯定感の向上、豊かな体験活動の充実（人づくり部）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目						
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価 意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・児童の主体的な学びを促し、自分の考えをもち、表現できる力を高める指導のあり方を探る。	・1単位時間や単元の「学習のまとめ」や「振り返り」で自分の考えを伝えたり、書いたりできたと回答した児童の割合が70%以上 ・児童の表現力を高めるために、授業の工夫に努めたと思う教職員の割合が80%以上 ・授業が分かりやすいと回答した児童が80%以上。	・「学習のまとめ」や「振り返り」で友達と話し合って書く活動を取り入れるなど授業改善を行う。 ・ICT機器(電子黒板やタブレット等)を活用する。	A	・どの成果指標も、目標より高い進捗度となっている。来年度も、自分の考えを伝えたり書いたりして、表現力を高めるための授業改善に取り組みながら、自分の考えを適切に表現できる児童の育成に努めていきたい。 ・ICT機器の活用は、教員だけでなく、児童のタブレット活用時間も増えてきている。教員間で活用法について研修等を行い、今後の活用に努めていきたい。	A
	○児童の豊かな読書力を推進する。	・進んで読書をしたと思う児童の割合が85%以上 ・読書の目標冊数を達成した児童90%以上	・読書推進のため、学級担任による児童への呼びかけを強化する。 ・図書館祭りなどのイベントを行い、図書館の魅力を発信する。 ・100冊読んだ児童やおすすめの本30冊を読んだ児童の紹介や掲示により、意欲を高める。	A	・学校評価アンケートで、「図書館で本をたくさん借りて読んでいますか」の項目で、約72%の児童が「進んで読書をしている」と解答している。成果指標85%に対して、80%以上を満たしている。また、2学期終了時点で、学年の目標冊数を達成している児童は、86人で、全体の58%である。3学期中に目標達成可能な児童が25名程度いるので、最終的には、成果指標90%に対して、80%以上になると見込まれる。学年による取り組みの差が大きいので、来年度は、学校全体で取り組んでいけるように、声掛けをしていきたい。	A
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・学校生活アンケートで、豊かな心を育む項目において、肯定的な回答をした児童の割合が80%以上。保護者80%以上。	・「人権集会」や「命を考える日」の取り組みを通して、命の大切さを実感させる。 ・異学年交流体験、保護者や地域人材を活用した授業を実施する。 ・保護者や地域の方々への道徳授業公開「ふれあい道徳」を実施する。	A	・学校生活アンケートにおいて、肯定的な回答をした児童が98%、保護者も94%だった。全校的に豊かな心が大体身についてきていると考える。引き続き「命を考える日」「ふれあい道徳」等を実施したり、体験活動を工夫したりするなど、豊かな心を育てる取り組みを継続していきたい。	A
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等において、学校いじめ防止基本方針に基づき組織的対応ができていると回答した教職員の割合が70%以上。	・いじめの認知・覚知に対するマニュアルの見直しを行う。 ・月1回生徒指導連絡協議会を行い、児童理解といじめの早期発見に努める。 ・なかよしアンケートを年間6回行う。	A	・いじめ防止等について組織的に対応できていると回答した教職員は、「あてはまる」が63%、「だいたいはあてはまる」が31%で目標の80%を達成できた。月1回の生徒指導連絡協議会や年間6回のなかよしアンケートなどで児童の様子について確認し、教職員間で共通理解を行うことができた。	A
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童75%以上 児童が将来の夢や目標を持てるような指導の工夫をしたと答えた教職員が70%以上	・年間の学校行事や学級活動の中で「出番・役割・承認」運動を全職員で推進する。 ・学期ごとに学習面・生活面の個人のめあてをもたせて取り組ませる。 ・道徳等で「夢」や「なりたい自分」に関する取組を実施し、それに向けて努力しようとする気持ちを向上させる。	A	・12月に実施したアンケートで、自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童が85%、自分の目標にねばり強く取り組むことができた肯定的に回答した児童が88%という結果だった。今後も、卒業や進級に向けて目標をもって取り組める活動を推進していきたい。	A

様式1(小・中)

●健康・体づくり	○児童の自己肯定感の向上	・学校生活アンケートで自分にはよいところがあると思う子どもの割合が75%以上 ・「先生は自分のよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ・「心のタイム」等で、「光るところ見つけ」カードを年間6枚以上書く。	・年6回の「なかよしアンケート」に自己肯定感に関わる項目を入れて実施する。 ・各学級で言葉や「光るところ見つけカード」などでみんなの前で紹介し、称賛するように取り組む。 ・年7回の「このタイム」による光るところ見つけ活動や教職員（生活面）保護者（学校行事）による承認活動に取り組む。	A	・学校生活アンケートで自分のよいところがあると思う児童の割合が82%で目標を達成できた。今後も、日頃から褒める場を作り、子供達のよいところをたくさん見つけていきたい。子どものよいところや頑張っているところを伝えていると答えた保護者は94%で、第1回より少し下がっていた。今後も児童の自信につながるよう保護者への啓蒙を図っていきたい。児童のよさを見つけ称賛する活動に94%の職員が取り組めたと回答している。今後も「認められている」と浸透していくよう継続したい。	A	・学校で自己肯定感をせっかく上げてもらっても、家庭での接し方もあるので、保護者用の子供への接し方も教えていった方がいい。
	次の中から1つ以上を選択 ●「望ましい生活習慣の形成」	・早寝、早起き、朝ご飯の取組ができていると回答した児童の割合が80%以上。 ・SNSなどの情報モラルやゲームをする時間などを守れていると回答した児童の割合が80%以上。保護者80 %以上。 ・むし歯保有率が佐賀県平均の23.77%以下にする。	・早寝、早起き、朝ごはんの啓発を年2回実施する。 ・7月に食生活アンケートを実施し、実態を把握する。 ・11月に朝ごはんの実践シートを実施し、家庭へ啓発を行う。 ・SNSの使い方など、情報モラルについての指導を学期毎に1回以上行う。 ・むし歯保有者の治療勧告書を個人面談時に個別に配布し、保護者の受診への意識付けを行う。 ・歯科衛生士によるブラッシング指導（歯ッピー教室）や歯の講話を実施する ・むし歯保有者にブラッシング指導を実施する。	A	・早寝早起き、朝ごはんの取り組みが達成できている児童は81%で達成できた。生活アンケートや実践シートの活用により家庭への啓発ができた。課題としては、睡眠時間の減少傾向が認められる。 ・SNSの使い方など情報モラルが守られている児童が96%、保護者は83%であり、達成できた。今後「三根校区ネットワーク5原則」を配布し保護者への情報モラルの意識付けを高める。 ・う歯の未処置率は1月時点で7.6%であり、県平均よりも低く達成できた。	A	・インターネットやゲームの時間など家庭での決め事を守る割合が多く、安心できました。SNSの危険性、情報漏洩、ハッキングなどの危険性も教えて欲しい。
	○「運動習慣の改善」	・目標を決めて、「スポーツチャレンジ」に1回以上取り組む。 ・遊べる日に、外で元気に遊んだとアンケートに答えた児童が75%以上。	・縦割り班で八の字跳びにチャレンジする期間を決めて取り組ませる。 ・学級で目標を決めて、「スポーツチャレンジ」に1回以上参加する。 ・月1回以上、学年で外遊びを決め、実施する。	A	・「外で遊べる日は外で遊んでいる」と回答した児童が、目標の75%を上回る78%だった。しかし、高学年の外で遊んでいる割合が低い結果だったので、冬のスポーツチャレンジの取り組みで、外で遊ぶ児童の割合を増やしていきたい。	A	
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	・教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限（1月45時間）を守れた教職員を90%以上にする。 ・計画的効率的に職務遂行できたと回答した教職員の割合を75%以上にする。	・校務の内容の工夫・精選、会議のペーパーレス化など効率的に職務を遂行し、全職員で協働的に教育活動を行い、時間外勤務時間の削減に取り組む。	A	・時間外在校等時間の上限（1月45時間）を守れた教職員は92%で、目標の90%以上を達成することができた。 また、計画的効率的に職務遂行できたと回答した職員の割合は100%で、目標の75%を大きく上回ることができた。	A	・子供達のために、時間外勤務をしていただき、ありがとうございます。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○教職員の心身の健康を支える職場環境づくり	・気持ちよく業務遂行できたと回答した教職員80%以上。	・相談しやすい職員室の雰囲気づくり ・職員が休みを取りやすい体制の工夫	A	・気持ちよく業務遂行できたと回答した教職員は82%で、目標の80%以上を達成することができた。職員が休みを申請した際の素早い補欠体制の整備や、相談しやすい職員室の雰囲気づくりの成果と推察する。	A	・いつもありがとうございます。とても感謝しています。
	○特別支援教育の理解と実践力の向上	・特別支援教育に関する校内研修を年2回以上行う。 ・特別な配慮の必要な児童に組織的に対応できたと回答した教職員が70%以上	・配慮の必要な児童理解の向上を図るために、年度初めと夏休みに研修会を実施する。 ・日頃の児童の小さな変化を、月1回職員全体で共有する場を設ける。 ・場合に応じてケース会議を開き、外部機関とも連絡を取り合って改善策を見つけていく。	A	・よくあてはまる、大体あてはまるの合計が88%となり、達成できた。 ・第1回のよくあてはまる65%から、第2回のよくあてはまる69%と少しいるが上昇しており、職員の意識が高まってきたといえる。	A	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域とともにある学校づくり	○保護者、地域、関係機関との連携の推進(幼保小連携含む)	・教育活動の充実のため、保護者、地域、関係機関と効果的に連携できたと回答した教職員80%以上。 ・学校は教育活動の様子を分かりやすく伝えていてと回答した保護者80%以上。	・学校だよりや各学年からのお便りなどで、教育活動の様子を随時伝える。 ・地域人材リストや地域連携カリキュラムを効果的に活用できるように、随時更新する。 ・学校ホームページを定期的に更新することで、最新の学校情報を発信する。	A	・「学校・学級だよりや連絡等で情報発信を密にし、保護者・地域・関係機関との連携を図っていますか」の問いに、89%の職員が「よくあてはまる」「大体あてはまる」と回答した。 ・「学校だよりや学級通信、ホームページ等を通して学校教育目標や学校の様子をわかりやすく伝えていると思いますか」の問いに、99%の保護者が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した。 以上のことから、現時点では十分に目標を達成できている。	A	・コロナ前のように、地域の人とのイベントで米作り、もちつき等を再開してもらえると、もっとお互いが楽しめるのではないかと思います。 ・ホームページ、学校便り、拝見しました。とても分かりやすかったです。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・全体的に、どの項目についても目標を達成することができていた。各担当者が企画・立案した計画について、全校が一丸となって取り組むことができた成果といえる。今後も、取組の良かった点は継続していきたい。 ・読書に進んで取り組む項目の評価が、児童・保護者共に低かった。学年による取組の差も大きかった。今後も、読書に関しては、本校全体の課題として、教職員の共通理解を図ると共に、児童の読書への関心が高まるように児童への声掛けや家庭への啓発、図書館運営の工夫などに努めていく。 ・授業中進んで自分の考えを発言している点についての児童評価が低かった。児童が、自信をもって自分の考えを表現したり主体的・意欲的に学習に取り組んだりできるように、学習過程に発表の場を必ず設定するようにしたり、ICTを利活用したりするなど授業の工夫に努めていく。
----------------	---